IoP クラウドと共に進化する研究推進部会のあり方に関する声明

令和 2 年 9 月 21 日
IoP プロジェクト
研究推進部会

研究推進部会では、今般、内閣府地方大学・地域産業創生交付金事業「IoP が導く Next 次世代型施設園芸農業への進化プロジェクト」（IoP プロジェクト）前半期間の 2018-2019 年度年次評価を行った。年次評価結果に基づく、IoP プロジェクト後半期間に向けた研究改善の一環として、IoP クラウドに対する研究推進部会の指針を以下の如くとりまとめ、IoP プロジェクトの成功に貢献する意志を事業関係者全員に宣言する。

１．研究推進部会と IoP クラウドとの関係性

研究推進部会は、IoP クラウドの中長期的価値創出を担うコア集団として、これまで以上に踏み込んだ関与を行なうべきである。例えば、クラウドサービスに実装しつつ進化していくのが適切な研究内容として、以下の項目が挙げられる：

（１）「植物生理学」的に正しいスマート園芸の実現
北野プロジェクト（統合課題 SP2）をハブとした研究連携の強化により、従来の環境制御を超えた全く新しい概念および価値創出の実現

（２）サイエンスに基づいた「マーケットイン」の実現
国内外の将来的なニーズを予測したマーケティング戦略に基づき、付加価値をどの方向に持って行ったら良いか、その付加価値を実装した生産量の増加を実現するにはどうしたら良いか、といった知見の蓄積

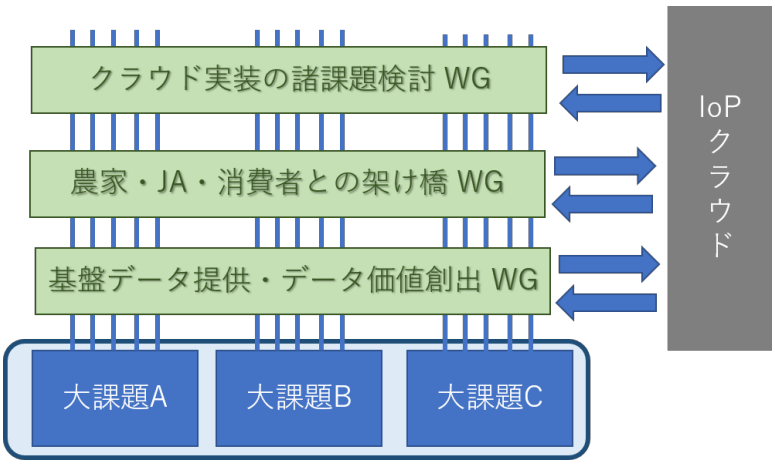
（３）「出荷データ」を武器としたデータ価値の創出
価値源泉である「出荷データ」と紐づいた多次元データより、AI および新奇数理モデルを駆使した、従来の多変量解析に囚われない独自の価値創出法の考案

２．研究推進部会のあり方（IoP クラウドとの共進化）

以上のことから、IoP クラウドと共に進化する「IoP クラウドのコアサポータ部会」という側面を持った部会へと発展すべきである。そこで今後は、下図に示す通り、従来の研究課題マネジメント（縦軸）に、クラウドとの共進化を図るワーキングマネジメント（横軸）を加え、出口を意識した研究マネジメントを実践すべきと考える。具体的には、下記３つの横串を通して、クラウドとの共進化を実現する機能を強化することを提案する：

（１）クラウド実装の諸課題検討グループ
（２）農家・JA・消費者との懸け橋グループ
（３）基盤データ蓄積・データ価値創出検討グループ

なお中課題リーダには、上記グループ幹事として積極的に関わって頂くことを希望する。



３．研究課題の統廃合

IoP クラウドのコアサポータであるという観点から、当該部会参加者は部会参加者を「誰一人取り残さない」よう組織運営することを原則とする。しかしながら、コアサポータとして熱量不足の研究課題（※）があれば、廃止はやむを得ないと考える。また、全体戦略（前項２の機能強化目的など）の観点から、課題統合と予算の傾斜配分は行うべきと判断している。

（※）年次評価結果に基づいた改善計画書が、中心研究者へ提出されている。年次評価が悪いにも関わらず、この改善書から判断したとき、特に KPI への貢献の観点から改善が見込めないテーマ等。